

脳神経外科手術における術後感染とその予防法の研究

作成日：2023年7月11日

研究に参加される患者さんへ

当院では、以下の研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、ご自身の試料・情報を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にご連絡ください。

ただし、すでに解析を終了している場合には研究データからあなたの情報を削除できない場合がありますので、ご了承ください。

研究題目

脳神経外科手術における術後感染とその予防法の研究

研究期間

2020年5月7日～2025年12月31日

対象患者

島根県立中央病院に入院し脳神経外科手術を受けられた患者さん

対象期間

1999年1月1日～2025年12月31日

研究機関の名称

島根県立中央病院、島根大学脳神経外科

研究代表者

脳神経外科 井川 房夫

意義・目的

脳神経外科手術でも周術期手術部位感染（SSI: Surgical Site Infection）の予防は重要です。主たる感染原因菌は皮膚常在菌である黄色ブドウ球菌、連鎖球菌であり、これをカバーする抗菌薬の予防的投与が推奨されます。開頭術では、すでに種々の抗菌薬の多数の無作為化比較対照試験（RCT）が実施され、抗菌薬の使用によって術後の髄膜炎発症が有意に減少することが示されています。我々は、日本のSSIに関するアンケート調査を行い、「術後感染予防抗菌薬適正使用のための実践ガイドライン」作成にも貢献してきました。

しかし、脳神経外科では、異物（チタンプレート、人工骨、シャントチューブ

等)を用いる手術後の薬剤耐性菌による感染等の問題があります。

そこで本研究では、脳神経外科領域で、特に異物を混入した手術での SSI 予防の抗菌薬の種類と投与期間、感染後の適切な管理方法等を明らかにすることを目的とします。

研究の方法（試料・情報の利用方法・他施設からの提供を受ける方法を含む）

電子カルテ等を利用して、「利用する試料・情報の項目」に示す項目を抽出します。島根大学医学部附属病院の研究責任者へ直接手渡しし、抽出したデータはロック機能を搭載した USB メモリに保存した上で抗菌薬と感染症の関連性を統計学的に検討します。

利用・提供を受ける試料・情報の項目

入院時年齢、性別、入院日、入院時 Japan coma scale (JCS) ※¹、Grasgaw coma scale (GCS)※²、病名、術式、合併症、入院時神経所見、CT,MRI 画像診断、術後感染症の有無、退院時転帰、培養結果、抗菌薬（投与期間、種類）退院時転帰、退院時 mRS※³、6 か月後 mRS、既往症、合併症、血液データ、投与薬物 等

※1 くも膜下出血による脳ヘルニアの進行の意識障害の評価方法

※2 外傷性脳障害による意識障害の評価方法

※3 脳血管障害だけに限定した日常生活動作の評価方法

個人情報の保護

当院における個人情報保護の基本方針に準じて行います。

結果の公表

投稿論文として公表する予定です。

お問い合わせ先

島根大学医学部

脳神経外科 内村昌裕

電話：0853 - 20 - 2386

研究代表者

島根県立中央病院

脳神経外科 井川房夫

電話：0853 - 22 - 5111

試料・情報の提供を行う機関の名称とその長の氏名

島根県立中央病院 病院長 小阪真二

共同研究機関の研究責任者

島根大学医学部 脳神経外科 教授 林健太郎